

第二類本『中務集』の構造について

妹 尾 好 信

【キーワード】 私家集、中務集、三十六人集

1. 『中務集』伝本の系統分類

村上・冷泉・円融朝を中心に活躍した女流歌人中務の家集『中務集』は、多く「三十六人集」のひとつとして伝わる他、単独で書写されたものもあって、伝本はかなりの数にのぼる。『私家集伝本書目』（和歌史研究会編 昭40 明治書院）には30点の写本と正保版本「歌仙家集」本が載せられているが、実際にはその倍くらいの数の伝本が存在しているのではないかと思う。

それらの伝本が、二類四系統に分けられることは、橋本不美男氏¹⁾・鈴木史真子氏²⁾・島田良二氏³⁾・太田美紀子氏⁴⁾らの研究によって明らかにされている。そして、現段階において最も適切と思われる分類名称は、次の新藤協三氏⁵⁾によるものである。

第一類 (a) 西本願寺本系	総歌数254首
(b) 正保版本歌仙家集本系	総歌数243首
(c) 伝西行筆本	総歌数226首
第二類 冷泉家時雨亭文庫蔵資経本系統	総歌数298首

第一類 (a) 系統は、国宝「西本願寺本三十六人集」の『中務集』を代表伝本とする系統で、他にも同類の伝本が多く存する。また、(b) 系統は、正保4年(1647)中野道也刊行の三十六人集「歌仙家集」の中の『中務集』をもって代表させる系統で、これも多くの伝本が存在する。この2系統は、歌数に11首の相違があるが、和歌の配列はほとんど一致している。歌数の相違は、西本願寺本にある歌を「歌仙家集」が15首脱している一方、西本願寺本にない4首の歌を「歌仙家集」が有しているためであって、これらは同一祖本から発しながら、伝来の過程でそれぞれ脱落が生じたものと見られる。

一方、(c) 系統の伝西行筆本は、加賀藩主前田家旧蔵の古写本で、尊経閣文庫蔵本として昭和14年(1939)に複製本も刊行されているが、現在は出光美術館の所蔵になる(重要文化財)。西本願寺本や「歌仙家集」本と配列が相似しているが、乱れた部分も少なくなく、歌数が少ないことからわかるように欠脱歌が多い。(a) (b) 両系統と同類ではあるけれども、脱落や混乱が生じた本から転写されたものと考えられる。

これらとは別に、第二類本は、歌数も多く、全く編成の異なる伝本形態で、第一類本にない歌を106首も有している(逆に、第一類本にある約60首を欠く)。この類には、長く宮内庁書陵部蔵の

いわゆる「御所本三十六人集」(函架番号510.12)の『中務集』1本が属するとされてきたが、冷泉家時雨亭文庫所蔵の重要文化財「資経本私家集」の中にその親本と目される『中務集』が発見・紹介されたため、同本をもって代表させることになったものである。歌の配列や構成が異なるのみならず、詞書の文体にも回想の助動詞「き」を用いるなどの特徴があることが指摘されており、自撰家集の趣を残したものかとも想像されている。

第一類本は、同類他系統の本を参照して欠脱を補わないと本来の形が見えないのに対して、第二類本はそれでひとつの統一形態が保存されていると考えられるので、本稿では、第二類本を取り上げて、その構成を検討することにする。底本には時雨亭文庫蔵資経本を用いて歌番号を付すが、同本は「御所本三十六人集」の『中務集』と歌数・配列ともに一致するので、御所本を底本とした『私家集大成』中古1所収「中務Ⅱ」および『新編国歌大観』第7巻所収の「中務集」の歌番号と同じである。

2. 第一部 — 「晴の歌」歌群

第二類本の構成に関しては、全体が大きく前半の「晴の歌」歌群(1～143番)と後半の「褻の歌」歌群(144番～298番)に分けられることがすでに諸家により指摘されている。本稿でもまずその大分類を踏襲して、第一部「晴の歌」歌群からその内部の構成を見ていくことにする。なお、第二類本『中務集』の構成に関しては木船重昭氏⁶⁾に詳しい考察があるので、それを参考にして、第一部については氏の設定された歌連番号を使用しながら眺めていくことにする。

第一部の前半(1～91番)は、主に屏風歌が集められており、次のような構成になっている。

- [1] 1～10 10首 村上朝内裏名所屏風歌(「村上先帝御時御屏風のゑに国々の名ある所々をかゝせ給てめしゝに」)
- [2] 11～21 11首 正月山里詠歌(「正月山さにて十二首」)
- * 「十二首」とあるが、11首しかない。脱落があるか。『恵慶集』(43～52)によれば恵慶の住む山里で詠まれた題詠連作10首。これに1首(21番)が追加されたか。この歌連は屏風歌ではないが、「十二首」なので、六曲二双の屏風歌ないし月次屏風歌と誤認してここに置かれたのかも知れない。第一類本にはない第二類本独自歌連である。
- [3] 22～27 6首 某所屏風歌(「屏風」)
- [4] 28～31 4首 (柔子内親王)五十賀屏風歌(「又人の五十の賀せさせ給屏風哥に」)
- [5] 32～37 6首 三条太政大臣(頼忠)算賀屏風歌(「三条のおほるまうちきみの賀権中納言のたてまつり給屏風のゑに」)
- * [3]～[5]の3連は、第一類本では集の冒頭から同じ配列で存する(正保版本は最後の37番歌を欠く)。第一類本と第二類本との資料の近似性を示すものであろう。
- [6] 38～44 7首 村上朝内裏四季屏風歌(「村上先帝御時屏風のれうに」)

- * 第一類本では2箇所に分置されている（西本願寺本17～21、32～34）。
- [7] 45～47 3首 左大臣（実頼）算賀屏風歌（「左のおとゝの御賀の屏風の」）
* 第一類本ナシ。
- [8] 48～49 2首（中宮安子）内裏献上扇歌（「此の宮の中にたてまつり給御扇に」）
* これは屏風歌ではなく、扇に書かれた歌であるが、屏風歌に準じて扱われたか。
- [9] 50～59 10首 村上朝内裏月次屏風歌（「村上先帝御時の月なみの御屏風に」）
- [10] 60～68 9首 朱雀院若宮裳着屏風歌（「朱雀院の若宮の御もきの屏風の」）
* [9]・[10]の2連は、第一類本にも同じ配列で存在する。資料が近似するか。
- [11] 69～70 2首 某所屏風歌（「御屏風のゑに」）
- [12] 71～81 11首 某所四季屏風歌（「又こと御屏風」）
* [11]・[12]の2連は、第一類本では構成の異なる2連として配置される（西本願寺本54～59、60～67）。
- [13] 82～84 3首（朱雀院）若宮裳着屏風歌（「若宮の御もきをかきとしける」）
* 第一類本ナシ。「かきとしける」は、脱落を補入したの意か。御所本「若宮の御もきをとしたる」。
- [14] 85～91 7首 坊城殿（師輔）五十賀屏風歌（「坊城殿五十賀中宮のし給に村上先王のおほせにてめしゝかは屏風のれう」）
* 第一類本（西本願寺本・正保版本）では10首あり、3首多い。
以上が第一部前半の屏風歌歌群である。後半は、歌合歌や召歌などを集めた歌群から成る。
- [15] 92～94 3首 天徳四年内裏歌合歌（「村上御時哥合右方にて」） * 第一類本ナシ。
- [16-A] 95 1首 村上朝中宮安子雛合歌（「村上御時中宮のひゝいなあはせに」）
- [16-B] 96～97 2首 同（「又れいけんてんの女御中宮にたてまつり給ひゝいなものにあしてにて」）
* 95～97の3首は、詞書は別だが、同じ中宮安子雛合に詠まれた歌である。
- [17] 98～107 10首 某所歌絵歌（「ゑにかきたる」）
* この一群は歌絵なので、第一部前半の屏風歌歌群にあってもよい歌と言える。
- [18] 108～109 2首 村上朝入れ文字歌（「村上御時にいれもしの哥おほせにて」）
- [19] 110～122 13首 雑詠歌 * この一群は晴の歌とは言えない、日常の暮らしの中で折に触れて詠まれた歌々である。最初の110番を除き第一類本ナシ（110番は混入か）。
- [20] 123～128 6首 円融朝鸞・郭公優劣歌（「円融院御時に鸞郭公いつれまされりとくらへさせ給しにおほせ事にてめしゝ四首」）
* 「四首」とあるが、鸞4首・郭公2首の6首ある。第一類本ナシ。
- [21] 129 1首 堀川中宮（皇子）韻塞歌（「堀川中宮のゑふたきのところぬめしゝかは」）
* 第一類本は「ほりかはの中納言」とあり、藤原兼通を指す。「韻塞」には男性の方がよい。

- [22] 130 1首 一品宮（資子内親王）負態扇歌（「七月七日一品宮の御このまけわさのあふきのれうに」） *天禄4年7月7日詠。
- [23] 131 1首 春宮献上扇歌（「春宮の殿上人のあふきたとへまつりしに」）
- [24] 132 1首 村上朝内裏菊合歌（「村上御時菊合に」） *天曆7年10月28日内裏菊合の歌。
- [25] 133 1首 村上朝紅梅・鶯造物歌（「おなし御時紅梅うゑさせ給て鶯のすなとつくらせ給てめして」）
- [26] 134～137 4首 四条宮瞿麦合歌（「四条宮の女御ときこえし時なてしこあはせ、させ給しによつ」） *天曆10年5月29日宣耀殿御息所芳子瞿麦合の歌。
- [27] 138～139 2首 光昭少将家歌合歌（「むまこの大納言の君一条のせうさうの女哥あはせ、しに」） *第一類本（西本願寺本）には「みつあきらの少将歌合するに」とある。
- [28] 140 1首 光昭少将稚児籠物歌（「をしむまこの少将のちこのもとに子日にあたりければ一条右大臣へこものなとしてたてまつる」）
- [29] 141～143 3首 冷泉院女一宮（宗子内親王）百日洲浜歌（「冷泉院の女一宮御も、かにたてまつらせ給すはまう（なカ）として」）

3. 第二部一「褻の歌」歌群

144番歌以下が第二部で、「褻の歌、日常詠である」（木船重昭氏⁶⁾）とされる。その通りだが、鈴木史真子氏²⁾が、冒頭から181番歌までを「屏風歌を主とする賀歌、召歌、歌合歌など」と大分類されているように、181番までは天皇や中宮をはじめとする貴顕とのやりとりが多く、晴の歌の要素がある歌が目立つのも事実である。しかし、それらは公的な場における詠歌ではないし、150～159の独詠歌群や、162～171の離別歌群などもあって、第一部とは明らかに区別される。言わば、第二部の初めの方は、第一部の晴の歌群の名残をややとどめているということであろう。

ここでは、鈴木氏の区分を参考にして第二部を次のように分類する。①144～181番は、天皇・中宮など貴顕とのやりとりと独詠歌・離別歌、②182～239番は中務周辺の家内の人々に関する歌、③240～281番は源信明との恋歌の贈答、④282～298番は身内の死を悼んで詠まれた哀傷歌群となる。木船氏は、第二部も〔30〕～〔73〕まで44の歌連に細分されているが、そこまで細かく区分する必要もないであろう。

各歌群をさらに細かく見れば、①144～181番では、最初の144番歌は独詠歌でやや孤立した感があり、第一類諸本にはない。混入の疑いがある。145～148番は、女三宮（光子内親王）・「右大将」（師尹）との贈答、149番は人から贈られた松を植えた返礼の歌である。続く150～159は折に触れての独詠歌、160・161番は村上天皇追悼歌と産養いの祝歌である。162～171番が地方へ行く人への離別歌群となる。172～181番が、村上・円融両天皇、中宮安子らとの贈答を中心とした歌々である。①の歌群の配列を第一類本と比べてみると、独詠歌中の155～158番の4首、161

番と続く離別歌の162～171番の11首がともに西本願寺本・歌仙家集本でも同じ配列で並んでおり、資料に近似性が感じられる（174～176番の贈答歌もちろん同じ配列で第一類各本に見える）。

②182～239番には、「大納言の君」「法師」「光昭の少将」（以上、中務の孫）、「井殿」（中務の娘）、「相如」（大納言の君の夫）、「麗景殿の宮の君」（法師の妻）など、中務の係累に属する人々の間で交わされた贈答を中心に載せている。その中で、隣人であった源順との贈答が2箇所にある（184～187、214～216）のが目につく。他に、源景明との贈答も2箇所にある（189～190、208～209）。配列としては、順との贈答が始まる184番から198番までの15首が第一類本にも同じ配列で載る（ただし、西本願寺本は196番歌を欠き、前田家旧蔵本は192の次に別の歌が1首存する）のが注意される。また、211～218番も第一類本でほぼ同配列になっている（西本願寺本は212・213の2首を欠き、歌仙家集本では211番歌がこの位置にない、前田家旧蔵本では216を欠くなどの相違がある）ことも、第一類本と第二類本との間の資料的な近似性が窺われる。

③240～281番は、中務と最も深い関係にあった男性である源信明との恋愛歌の贈答歌群で、「さねあきら」と実名を記した例（257）もあるが、「ある人」（240）「かたらふ人」（242番）と臚化したり、「たれともなしおとこ」（246）とことさらに無名を装ったりするものもあり、多くは「おとこ」「をんな」と記して第三人称で書かれているのが注意される。詞書は短いけれどもやや歌物語化を志向したところを感じられる。配列としては、②の末尾の238番から245番までが第一類本にも同じ配列で出ており（243欠、前田家旧蔵本は245も欠）、以下、246～249番、250～256番、269～275番と、いくつかのまとまりごとに同じ配列で第一類本にも見えている。

④282～298番は、出家した大江為基に贈った歌12首（282～293）と「いる」（「お殿」の誤写か）との麗景殿の宮の君追悼歌贈答（294～297）、そして為基からの返歌（298）から成る。『拾遺集』（1312・1313）によれば為基に贈った歌も娘や孫の死を悼む歌で、第一類本『中務集』の末尾は哀傷歌が並ぶことになる。この近親者への哀悼の思いが歌人中務の晩年の生活を象徴しており、おそらく本歌集の重要な編纂動機のひとつとなっていることは、自撰であろうと他撰であろうと間違いないであろう。

[注]

- 1) 『桂宮本叢書』第1巻（昭37 養徳社）。
- 2) 「中務集の一研究」お茶の水女子大学『国文』第24号（昭40.12）。
- 3) 『謚私家集の研究』（昭43 桜楓社）。
- 4) 「中務集私見」『武庫川国文』第6号（昭49.3）、「中務集諸本の系譜」『武庫川国文』第14・15号（昭54.3）。
- 5) 『合本三十六人集』（平15 三弥井書店）解題。
- 6) 『中務集 相如集 注釈』（平4 大学堂書店）解説。

《付表》『中務集』和歌配列対照表および他出一覧

〔凡 例〕

1. 第二類本の代表伝本である冷泉家時雨亭文庫蔵資経本『中務集』を主底本として、第一類本の主要伝本との間の和歌配列の対照ならびに各歌の他出文献を一覧した。
2. 最初に主底本の歌番号を3けたで表示し、初句を掲げた。初句の表記は『冷泉家時雨亭叢書』「資経本私家集」二（平成13 朝日新聞社）所収の影印によった。ただし、2字以上の繰り返しを表す踊り字は用いなかった。歌番号は「御所本三十六人集」の『中務集』に一致するので、『私家集大成』中古1所収「中務Ⅱ」および『新編国歌大観』第7巻所収の「中務集」の歌番号に等しい。
3. 第一類本の主要伝本として、
 - ①「西本願寺本三十六人集」中の『中務集』（「西」と略す。歌番号は、『私家集大成』中古1所収「中務Ⅰ」および『新編国歌大観』第3巻所収の「中務集」に等しい）
 - ②正保版本「歌仙家集」中の『中務集』（「仙」と略す。歌番号は、『合本三十六人集』〈平15 三弥井書店〉所収「中務集」に等しい）
 - ③前田家旧蔵伝西行筆『中務集』（「前」と略す。歌番号は、「尊経閣叢刊」『中務集』〈昭14 育徳財団〉複製の解題に示された歌番号に等しい）
 の3本を取り上げ、主底本の歌に該当する歌の歌番号を3けたで表示した。該当する歌が存在しない場合は空欄とした。
4. 和歌他出文献は、『新編国歌大観』全10巻（昭58～平4 角川書店）に所収された文献について調査した。掲げた歌番号はすべて同書によっている。文献名は、適宜「和歌」「集」「抄」などの語を省いて、略称で示した。配列は概ね、勅撰集・私撰集・私家集・歌合・歌学書・説話集・物語古注釈書の順とした。第7巻所収の私家集には☆印を付した。括弧内に、その文献が記す詠者名を掲げた。詠者名を記さないものは「不記」、詠み人知らずとするものは「不知」と略記した。ただし、私家集については、詠者名が明記されている場合のみその詠者名を掲げた。また、同一歌と認めるのが困難な歌、歌句・表現が似通った別歌は「類歌」と表示して掲げた。その他、参考事項を《 》内または*印を付して記した。
5. 第一部と第二部の境界は二重線で区切り、以下、歌の内容や第一類本における配列との関係などを考慮して、大きな歌群の切れ目から小さな歌連の切れ目まで、太実線、細実線、点線の順で区切った。

(初句)	西	仙	前	(他出文献)
001 よしのやま	022	021	022	続後拾遺4(信明), 麗花4(中務?), 新撰朗詠70(中務), 万代18(信明), 信明集27
002 いそのかみ	024	023	024	新古今88(不知), 深窓秘抄15(中務), 和漢朗詠529(不記), 三十六人撰143(中務), 歌枕名寄2609(不知), 清正集7
003 さくらはな	025	024	015	雲葉198(中務), 夫木1434(中務)
004 人めのみ	026	025	026	夫木1815(中務), 夫木1816(類歌・能宣), 能宣集254(類歌)
005 もしほやく	027	026	027	拾遺集1096(不知), 歌枕名寄4244(不知)
006 雪はあり	029	028	029	新勅撰1291(中務), 歌枕名寄4985(中務)
007 はつかりの	028	027	028	
008 みちのくの	031	030	031	
009 さためなき	023	022	023	新古今1657(中務)
010 たのまれぬ	030	029	030	
011 ゆきましり				
012 やまふかく				
013 はるのけは				
014 こほりとく				
015 山さとに				
016 さけはちる				拾遺集36(中務), 拾遺抄22(中務), 三十六人撰149(中務), 宝物集295(中務), 源氏古注(河海)1476(不記)
017 いとくそ				
018 かたをかの				
019 たひねする				
020 我やとは				
021 しはのを				
022 野辺にいてゝ	001	001	001	風雅11(中務)
023 野も山も	002	002	002	万代307(中務)
024 ふちの花	003	003	003	金葉初度129(中務)
025 山さとも	004	004	004	
026 そてひちて	005	005	005	金葉初度375(中務), 金葉三奏293(中務)
027 をひにける	006	006	006	
028 わかなをひん	007	007	007	
029 君といへは	008	008	008	
030 浦ちかく	009	009	009	

031 あさりする	010	010	010	
032 あかてけふ	011	011	011	詞花166 (中務), 風雅2174 (中務)
033 君かため	012	012	012	秋風集124 (中務)
034 色かへぬ	013	013	013	後撰186 (不知), 源氏古注 (釈) 298 (不記)
035 女郎花	014	014	014	
036 なかれつゝ	015	015	015	
037 ふる雪の	016		016	麗花79 (中務), 玉葉63 (類歌・信明), 新後拾遺21 (類歌・信明), 万代109 (類歌・信明), 信明集20 (類歌)
038 春はかく	017	016	017	麗花11 (中務)
039 とゝまらぬ	018	017	018	
040 あやめ草	020	019	020	
041 うちはえて	033	032	033	麗花42 (中務)
042 まもりくる	021	020	021	
043 人しれす	032	031	032	新拾遺1614 (中務), 麗花54 (中務), 夫木4710 (中務)
044 をとちかく	034	033	034	新続古今1803 (中務), 万代1536 (中務)
045 をしほ山				続古今622 (中務), 夫木11378 (元輔), 元輔集☆112, 歌枕名寄960 (中務), 井蛙386 (中務)
046 いなり山				
047 まちつらん				金玉74 (中務), 三十人撰126 (中務), 三十六人撰146 (中務), 新撰朗詠610 (中務), 玉葉1170 (類歌・中務), 大鏡76 (類歌・中務)
048 君かてに	123	123	128	三十人撰130 (中務), 和漢朗詠203 (中務)
049 そてのうらの	124	124	129	新古今1497 (中務), 歌枕名寄6862 (中務)
050 梅かゝを	035	034	035	
051 春かすみ	036	035	036	
052 わかやとし	037	036	037	
053 かみをたに	038	037	038	秋風集621 (中務), 伊勢集122, 歌枕名寄96 (中務)
054 しるきかも	039	038	039	
055 したくゝる	040	039	040	新千載302 (中務), 麗花43 (中務), 和漢朗詠166 (中務), 秋風集221 (中務), 三十人撰128 (中務), 三十六人撰148 (中務)
056 ありあけの	041	040	041	
057 けふを見ぬ	042	041	042	秋風集429 (中務)
058 こほりみる	043	042	043	続後撰500 (中務), 資通歌合23 (僧そうすん)
059 ゆきふかく	044	043	044	伊勢集459
060 小松はら	045	044	045	

061 むめの花	046	045	046	信明集21
062 くりかへし	047	046		風雅104(類歌・中務), 光昭家歌合3(類歌・中務), 宇津保物語497(類歌・貴官), * 西本願寺本中務集79(類歌)
063 ちはえて	048	047	047	
064 いのるとも	049	048	048	
065 はつかりの	050	049	049	玉葉1157(中務), 万代901(中務)
066 もみちはの	051	050	050	信明集23
067 さ夜ふけて	052	051		新拾遺1448(中務), 夫木7525(中務), 雲葉833(中務)
068 たきのいとも	053	052	051	
069 夜とゝもに	062	061	069	
070 いにしへの	067 061	066 060	074 068	伊勢集77, 古今六帖2924(類歌・伊勢)《※西本願寺本中務集の67上句と61下句を合わせた形》
071 つちわくる	065	064	072	
072 ふくかせに	066	065	073	新勅撰25(中務)
073 みなそこに	060	059	067	
074 うとからて	054	053	052	
075 あさからて	055	054	053	後拾遺129(元輔), * 私家集大成元輔集I 229(類歌)
076 うの花の	063	062	070	
077 行みちも	056	055	054	麗花28(中務)
078 きみかため	057	056	056	
079 花の色の	059	058	057	
080 露をたに	058	057	056	
081 としことに	064	063	071	古今六帖227(伊勢), 伊勢集81
082 すかのねの				
083 はつはなど				朝忠集49
084 我やとの				拾遺集184(元輔), 三十人撰123(中務), 三十六人撰147(中務), 和漢朗詠265(中務), 元輔集147, 元輔集☆11, 奥儀254(不記), 和歌色葉353(不記), 色葉和難831(不記), 定家八代抄425(元輔)
085 ふくかせに	068	067	075	
086 みなその	069 077	068 076	076	夫木9948(類歌・不知)《※西本願寺本中務集の69上句と77下句を合わせた形》
087 山桜	071	070		夫木12376(中務)
088 岸ちかき	070	069	077	
089 すみよしの	072	071		

090 山ふきの	075	074	080	風雅272 (中務), 雲葉239 (中務), 歌枕名寄850 (中務集)
091 しらなみの	076	075	081	
092 としことに				続千載114 (中務), 天徳内裏歌合15 (中務)
093 なつころも				金葉三奏97 (中務), 天徳内裏歌合23 (中務), 袋草紙348 (中務)
094 きみこふる				金葉三奏363 (中務), 兼盛集100, 天徳内裏歌合35 (中務)
095 たなはたも	114	114	120	
096 白波に	115	115	121	
097 たなはたの	116	116	122	
098 かみなつき	104	104	110	
099 あとたえて	105	105	111	
100 いかてかは	106	106	112	
101 ゆくをたゝ	108	108	114	
102 ゆく人に	107	107	113	新後拾遺845 (中務)
103 たとへなく	109	109	115	
104 あさりして	110	110	116	
105 身をすてゝ	111	111	117	
106 そら見えて	112	112	118	
107 さよふけぬ	113	113	119	
108 よゝをへて	132	132	137	
109 つきもせず		133	138	
110 ゆきおほみ	133	134	139	
111 くさまくら				秋風集335 (中務)
112 あけかたに				
113 うつろはゝ				
114 ちりまかふ				
115 のりをとく				
116 しらゆきも				
117 ふきてしも				
118 きくひとも				
119 あくまでも				
120 ふちなみの				
121 むらさきの				
122 としことに				

123 こほりとして				
124 うくひすの				
125 うくひすの				
126 ちる花に				
127 ほとゝきす				
128 郭公				師光集23(類歌), 万代623(類歌・師光)
129 なつやまの	129	129	134	
130 あまの川	125	125	130	拾遺集1088(中務), 拾遺抄98(中務), 深窓秘抄37(中務), 三十人撰127(中務), 三十六人撰150(中務), 和漢朗詠201(中務), 円融院扇合12(不記), 撰集抄71(中務)
131 こよなくそ	126	126	131	
132 たつのすむ	121	121	126	玉葉779(中務), 夫木5898(中務), 古今著聞集333(延光)
133 うくひすの	122	122	127	続後撰49(中務)
134 あしたつの	117	117		
135 かきをなる	118	118	123	宣耀殿女御瞿麦合3(中務)
136 なてしこの	119	119	124	宣耀殿女御瞿麦合1(中務)
137 なてしこの	120	120	125	夫木3461(不知), 宣耀殿女御瞿麦合解1(不記)
138 にほふかの	078	077	082	風雅82(中務), 夫木676(不知), 光昭少将家歌合1(中務), 女房三十六人歌合14(中務), 歌枕名寄1226(中務集)
139 くりかへす	079	078	083	風雅104(中務), 光昭少将家歌合3(中務), *西本願寺本中務集47(類歌)
140 春さむみ	080	079	084	
141 なみたちて	084	083	088	
142 みなそこに	085	084	089	秋風集654(中務)
143 雲井にて	086	085	090	
144 のちに人				
145 つゆしけき	148	136	150	
146 あさちふの	149	137	151	
147 よしのやま	147	135	149	一条摂政御集67
148 いはなみは				一条摂政御集68(井殿)
149 おもふより				
150 いつこをか				
151 はるたてゝ				
152 やまのはゝ	245	236	060	

153	いまはとて	242	233		
154	なかきよを	243	234	058	玉葉528 (中務), 麗花49 (中務), 夫木4264 (伊勢大輔)
155	ほしまよふ	221	212	224	
156	けふとみな	222	213	225	秋風集250 (中務)
157	こよひこそ	223	214	226	
158	なに事も	224	215		
159	月かけの	231	222		
160	うつくつる				
161	ちとせまで	087	086	091	麗花107 (中務)
162	きみかゆく	088	087	104	続千載763 (中務)
163	風よりも	089	088	105	
164	もみちはの	090	089	106	
165	いろふかき	091	090	107	
166	をいぬれと	092	091	108	
167	風ふけは	093	092	109 099	夫木2094 (兼覧王), 亭子院歌合32 (兼行王) 《※前田家旧蔵本は重出》
168	ときのみも	094	093	100	
169	なくなみた	095	094	101	
170	こきませて	096	095	102	
171	しら山の	097	096	103	
172	しくれつゝ				拾遺集1141 (中務), 拾遺抄423 (中務), 村上御集122 (中務)
173	むかしより				拾遺集1142 (天曆御製), 拾遺抄423 (御製), 村上御集123 (御製)
174	いまさらに	081	080	085	円融院御集1 (中務)
175	かすかのに	082	081	086	拾遺集20 (円融院御製), 拾遺抄376 (円融院御製), 玄々1 (円融院御製), 新撰朗詠31 (円融院御製), 円融院御集2 (御製), 古来風体345 (円融院御製), 五代集歌枕682 (円融院), 歌枕名寄1755 (円融院), 前斎院摂津集32 (類歌)
176	としつめと	083	082	087	円融院御集3 (中務)
177	うみにのみ				拾遺集457 (伊勢), 拾遺抄516 (伊勢), 古今六帖3513 (伊勢), 伊勢集71,
178	みれとなを	127	127	132	続古今1781 (天曆贈太皇太后)
179	きえぬまを	128	128	133	
180	なき人の	130	130	135	新勅撰1212 (中務)

181 思いてゝ				
182 しくれをは	160	148	162	
183 とにかねて	161	149	163	
184 みせきにも	205	193	206	順集251
185 いつみたに	206	194	207	順集252(中務)
186 いつみにも	207	195	208	順集253
187 うちこえん	208	196	209	順集254(中務)
188 こたかくて	209	198	210	
189 つねにかく	210	199	211	
190 たちいてぬる	211	200	212	
191 おもふとち	212	201	213	
192 春のよの	213	202	214	
193 このはるを	214	203	216	
194 いかにせん	215	204	217	
195 かつらきの	216	205	218	
196 ことつくる		206	219	
197 たえまなく	217	207	220	
198 をとちかく	218	208	221	秋風集858(中務)
199 あやめくさ				
200 あふことを				
201 うきよをも				
202 なつふかき				
203 をのつから				
204 かみてふの				
205 花の色は				後撰102(類歌・元良親王), 時代不同歌合61(類歌・元良親王), 定家八代抄166(類歌・元良親王)
206 あまの川	251	242	066	
207 われよりは	131	131	136	続後撰1140(中務), 万代3502(中務), うたたね22(作者)
208 見にもこぬ				
209 枝たわみ				
210 こひしくは				古今六帖4048(伊勢)
211 きみかゆく	098	209	092	新千載744(中務)
212 わかるらん		097	093	
213 しら山に		098	094	* 西本願寺本中務集97(類歌)
214 冬ふかく	099	099	095	夫木647(中務)

215 梅の花	100	100	096	
216 いっはたと	101	101		続後拾遺548 (中務)
217 わかれゆく	102	102	097	
218 つらにかくる	103	103	098	
219 をとにきく				
220 よしの山				
221 川ふねに				
222a まねくをは				
222b おふかせに				
223 かりのこも				
224 なみたのみ				
225 きみまちし				
226 花のかの				
227 いはぬ色を				
228 たまみつの				
229 きみかきく				
230 すはるいてゝ				
231 たひたひに				
232 こひしくも				
233 こひしくは				元輔集209
234 いかならんと				
235 さともなく				相如集53
236 かすならぬ				夫木12065 (中務), 相如集52
237 なくまなく				
238 人しれぬ	175	163	177	
239 花みると	176	164	178	
240 こよひこそ	177	165	179	信明集143
241 ほとゝきす	178	166	180	信明集144
242 うつゝとも	179	167	181	麗花102 (伊勢?), 秋風集809 (中務)
243 またみへき				
244 ゆめにても	180	168	182	
245 うつゝには	181	169		
246 しくれにも	194	182	195	拾遺集688 (不知)
247 こさまさる	195	183	196	
248 はきのえの	196	184	197	秋風集357 (中務)
249 いねかてに	197	185	198	

250	はかなくて	166	154	168	後撰594(中務), 信明集92
251	わひしきを	167	155	169	後撰595(信明), 信明集93
252	さは水の	168	156	170	
253	まさるらん	169	157	171	
254	あるよりも	170	158	172	新勅撰890(中務)
255	かくしつゝ	171	159	173	
256	あふくまを	172	160	174	
257	かくてなを	228	219		
258	かゝらんと	226	217		
259	ありしより				信明集102
260	はつかにて				信明集78
261	きみこふる	162	150	164	
262	人こふる	163	151	165	
263	身のうへも	164	152	166	新勅撰889(中務), 信明集69
264	きみたにも	165	153	167	信明集70
265	人やりに				信明集64
266	み ^(を) □□□□				信明集65
267	なみたとも				信明集79
268	なみたとも				信明集80
269	ちきりけん	187	175	188	信明集82
270	たなはたの	188	176	189	信明集83
271	ゆゝしとも	189	177	190	信明集84
272	こひしきは	190	178	191	拾遺集787(信明), 拾遺抄363(信明), 三十人撰82(信明), 三十六人撰99(信明), 信明集113, 俊頼髓脳45(不記)・189(不記), 和歌色葉66(不記), 八雲御抄82(不記), 和歌肝要12(不記), 和歌大綱3(不記), 悦目抄36(不記), 定家八代抄1379(信明)
273	さや ^(か) □□□□	191	179	192	拾遺集788(中務), 拾遺抄364(中務), 三十人撰125(中務), 三十六人撰145(中務), 信明集114, 俊頼髓脳190(不記), 和歌色葉67(不記), 定家八代抄1380(中務), 和泉式部続集130(類歌)
274	□ ^(こ) ろもたに	192	180	193	
275	うちとなく	193	181	194	拾遺集898(中務)
276	あひも見ぬ				信明集87
277	我をこそ				信明集86
278	夜見よし				信明集94

279 あたらよの				後撰103 (信明), 三十人撰81 (信明), 三十六人撰100 (信明), 三百六十首和歌55 (信明), 信明集99, 雲玉集 (馴窓) 94, 時代不同歌合181 (信明), 俊成三十六人歌合70 (信明), 古来風体305 (信明), 歌林良材424 (不記), 定家八代抄167 (信明), 源氏古注 (釈) 125 (不記)・309 (不記)・426 (不記), 源氏古注 (紫明) 857 (不記)
280 人□□□				伊勢集128, 古今六帖488 (類歌・不記), 夫木7891 (類歌・不知)
281 五月雨の	073	072	078	
282 けふまでも				拾遺集1312 (中務), 拾遺抄373 (中務), 金玉54 (中務), 深窓秘抄84 (中務), 三十人撰121 (中務), 三十六人撰141 (中務), 俊成三十六人歌合108 (中務), 宝物集316 (中務) 夫木11494 (中務) 麗花68 (不明), 万代1249 (中務)
283 わすられて				
284 なきかけは				
285 しきりつゝ				
286 つゆのこと				
287 袖ぬるゝ				
288 うちすてゝ	252	243		
289 身□□□□				
290 なにことに				
291 きえはてゝ				
292 かゝるよに				
293 うきなから				拾遺集1313 (中務), 拾遺抄374 (中務), 麗花118 (不明), 時代不同歌合179 (中務), 源氏古注 (釈) 383 (不記), 源氏古注 (河海) 1669 (不記)
294 あきはてゝ				
295 ことのはを				
296 ほのほのと				
297 なき人の				
298 ほともなく				

A Study on the Structure of the Second Kind of *“Nakatsukasa-shu”*

Yoshinobu SENO

There are two kinds of collections about Nakatsukasa's poetry, which was compiled in the middle of the Heian Era.

In this Paper, I will focus on the so-called second kind of her collection, and give a new light on the meaning of the arrangement of the poems and the structure of the collection.